

# 2025年3月期決算説明資料

2025.6.24

日本精密株式会社

東証STD 7771



肌に優しい  
金属加工技術



# Beyond China

NT

1.2025年3月期 決算概況

2.2026年3月期 事業計画

# 2025年3月期 決算ハイライト

- 時計関連と釣具・応用品がけん引。6期ぶりに売上高70億円超。
- 釣具・応用品の売上高が初の10億円突破。メガネフレームを逆転。
- シンジケートローン締結
- 「継続企業の前提に関する重要事象等」記載の解消

売上高  
(2024年3月期)

+6.4% ↑

7,158百万円  
(6,728百万円)

営業利益  
(2024年3月期)

+9.2% ↑

275百万円  
(252百万円)

営業利益率  
(2024年3月期)

+0.1pt ↑

3.85%  
(3.75%)

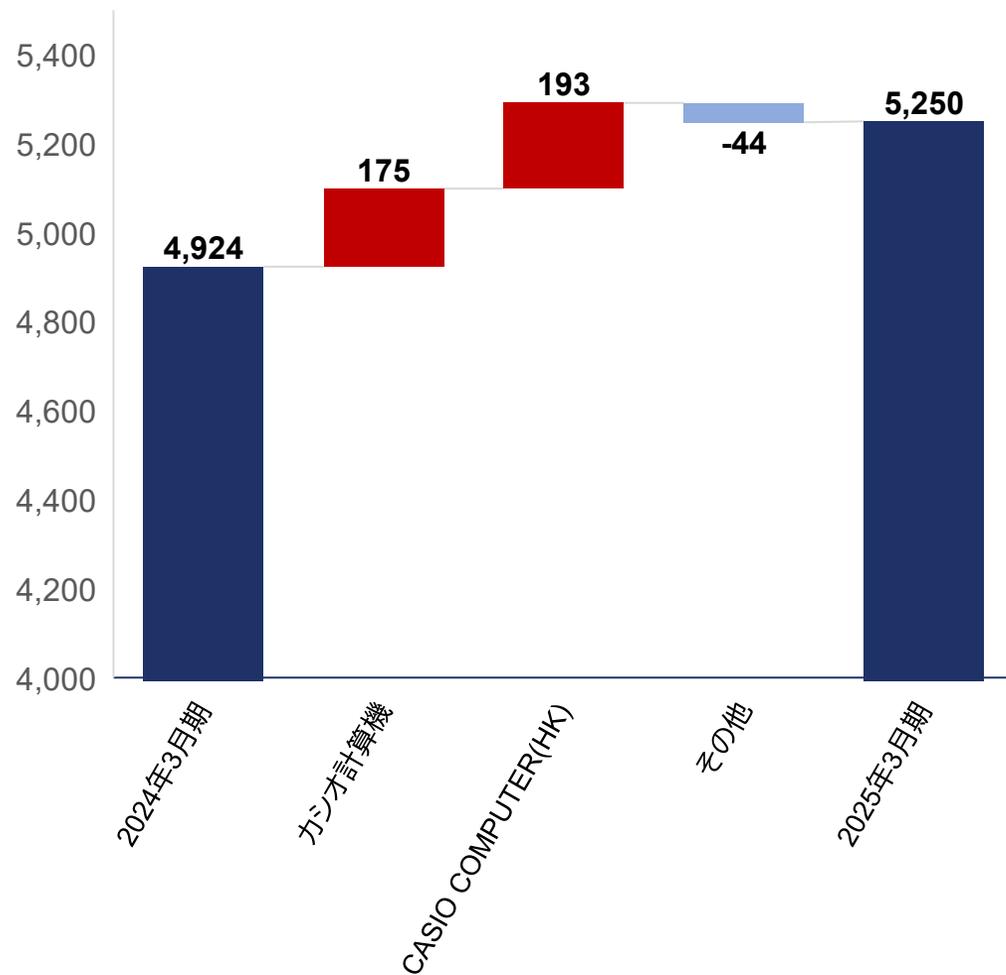
# 2025年3月期 PLサマリー

時計関連と釣具関連が好調で増収、特に利益面では釣具がけん引し営業利益は前期比+9%の増益となった。  
一方で、営業外費用としてシンジケートローン手数料、為替差損等を計上したことにより経常利益は減益、親会社株主に帰属する当期純利益は赤字となった。

単位:百万円	2024年3月期 実績	2025年3月期 実績	増減額	増減率
売上高	6,728	7,158	430	+6.4%
売上総利益	1,428	1,501	72	+5.1%
売上総利益率	21.2%	21.4%	△0.8P	—
販管費	1,176	1,226	49	+4.2%
販管費比率	17.5%	17.1%	△0.4P	—
営業利益	252	275	23	+9.2%
営業利益率	3.8%	3.9%	+0.1P	—
経常利益	448	2	△445	△99.4%
経常利益率	6.7%	0.0%	△6.6P	—
親会社株主に帰属する当期純利益	390	△20	△410	—
当期純利益率	5.8%	—	—	—

# セグメント情報:時計部門

## ■ 売上高増減要因(取引先)

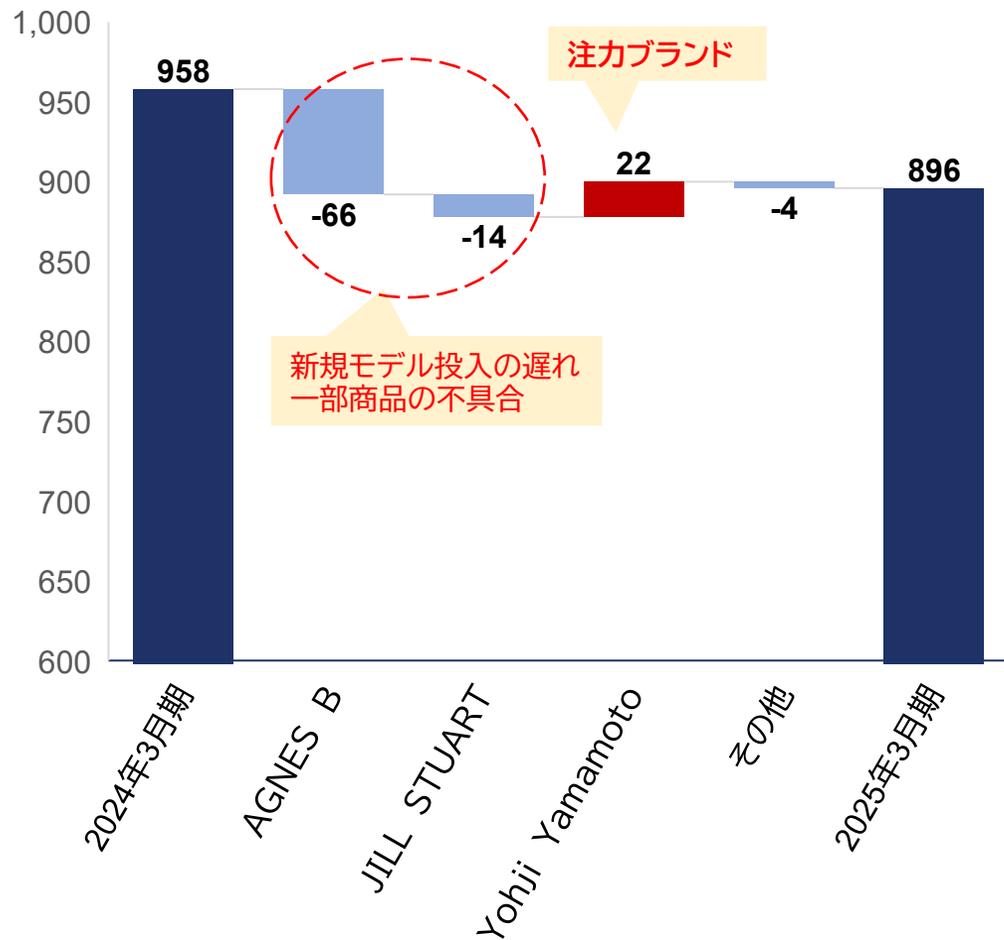


	2024年3月期	2025年3月期	前年同期比 金額	前年同期比 %
売上	4,924	5,250	325	6.6%
セグメント利益	140	138	-1	-1.1%
受注高	5,177	5,160	-17	-0.3%
受注残	583	493	-90	-15.4%

主要取引先であるカシオ計算機向けがけん引し、増収となったが、製品ミックスの影響により利益率が低下しセグメント利益はわずかながら減益。

# セグメント情報:メガネフレーム部門

## ■ 売上高増減要因(ブランド)

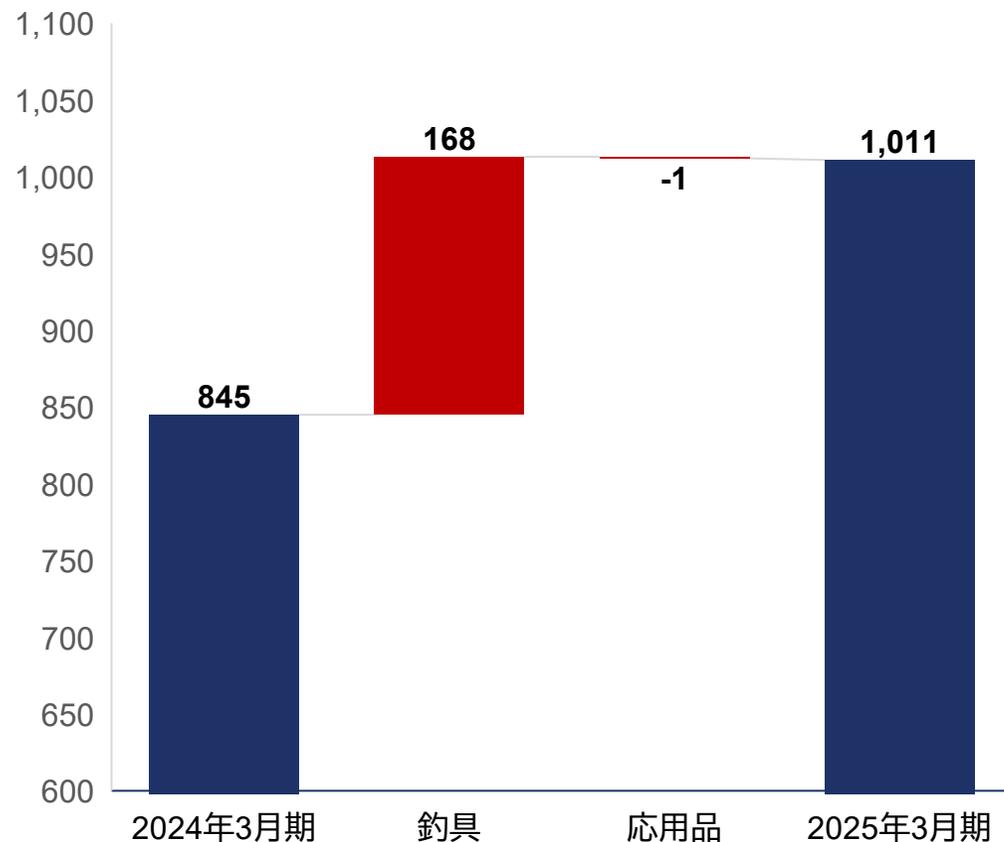


	2024年3月期	2025年3月期	前年同期比 金額	前年同期比 %
売上	958	896	-61	-6.4%
セグメント利益	58	4	-53	-91.9%
受注高	951	845	-106	-11.2%
受注残	277	226	-51	-18.5%

注カブランド *Yohji Yamamoto* は前期比+12%と順調に拡大した一方で、主要ブランドにおいて一部商品の不具合、新規モデル投入の遅れがあり全体としては減収減益。

# セグメント情報:釣具・応用品部門

## ■ 売上高増減要因(製品)



	2024年3月期	2025年3月期	前年同期比 金額	前年同期比 %
売上	845	1,011	166	19.7%
セグメント利益	61	127	65	105.3%
受注高	909	1,051	142	15.7%
受注残	230	270	39	17.4%

世界的な釣り人気もあり、釣具が前年比+20.9%と大きく伸長し増収増益。  
初めて売上高が10億を超え、時計部門に次ぐ規模となった。

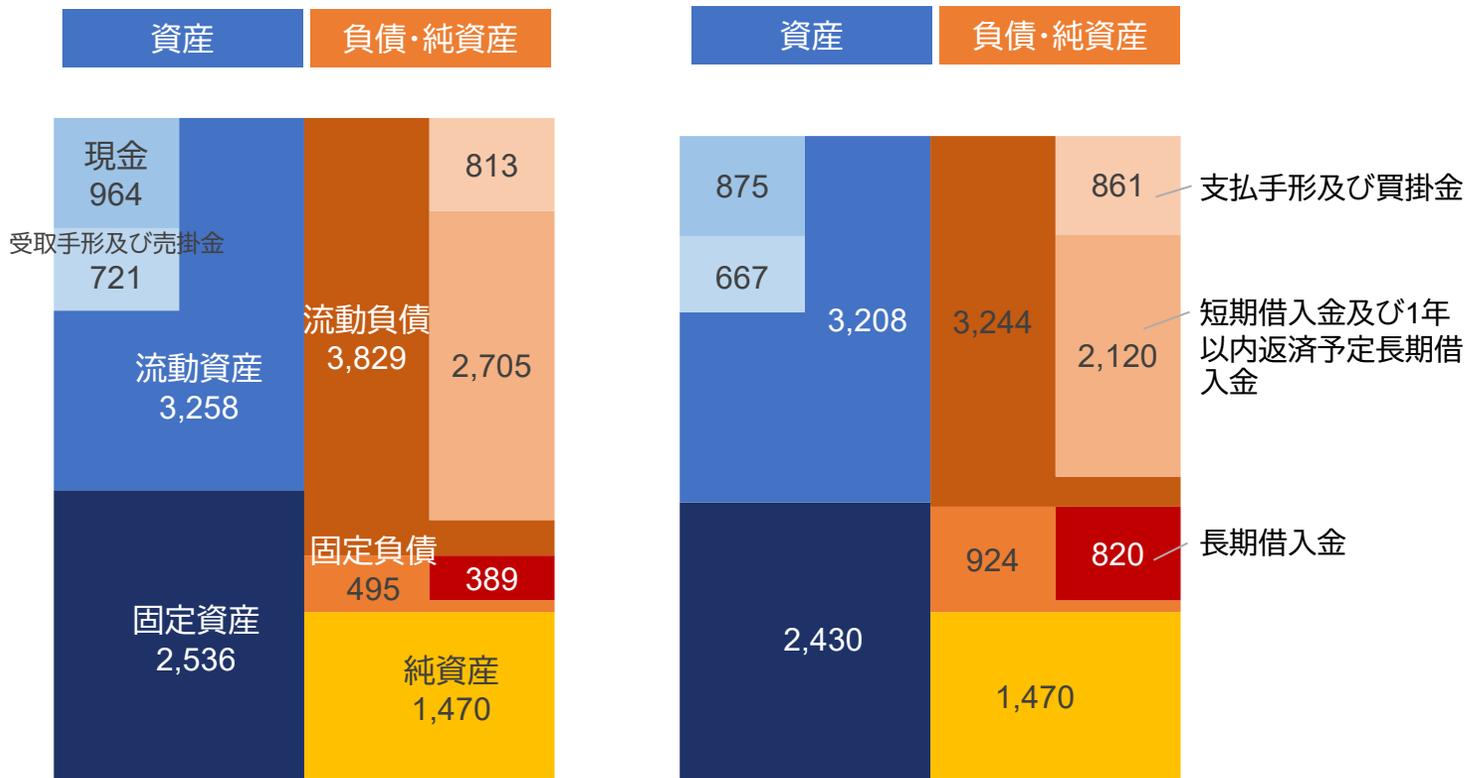
# 2025年3月期 BS サマリー

## 2024年3月末

総資産:5,794百万円  
自己資本比率:25.4%

## 2025年3月末

総資産:5,639百万円  
自己資本比率:26.1%



### 主な増減要因

- 流動資産の減少:借入金の返済による現金及び預金の減少
- 流動負債の減少:リファイナンスに伴う短期借入金の減少
- 固定負債の増加:リファイナンスに伴う長期借入金の増加

当社グループは、2017年年3月期から2021年3月期にかけて売上高の減少および損益・キャッシュ・フローの悪化に直面、親会社株主に帰属する当期純損失の計上、営業キャッシュ・フローの支出継続、借入金元本の一定期間の返済猶予による有利子負債依存度の上昇(50%超)など、事業・財務の両面で深刻な課題を抱え、継続企業の前提に関して重要な義務を生じさせる状況にあった。2017年6月に第3者割当増資を実施し財務面の強化を図るとともに、2017年3月期から事業構造改革に取り組み業績の回復を実現したことから、2025年2月シンジケートローン契約を締結、元本の返済猶予を受けていた対象借入金を全額返済、リファイナンスによる金融取引の正常化、返済負担の軽減が図れた。  
業績、財務面の安定化が順調に進捗したことにより「継続企業の前提に関する重要事象等」が解消。

肌に優しい  
金属加工技術



# Beyond China

NT

1.2025年3月期 決算概況

2.2026年3月期 事業計画

# 事業方針: 全社グループ

新型コロナ、ウクライナ紛争に続き、米国関税問題によりグローバルでサプライチェーンの再構築が進む状況を好機と捉え更なる飛躍の第一歩とする

## モノ作りの脱中国をサポート Beyond China 戦略

7つの戦略ドライバーを軸に飛躍のFirst stepを刻む

1. 既存事業の競争力強化
2. 精密加工技術を活かした事業領域の拡大、M&Aによる成長
3. ASEAN拠点の最適化
4. 村井ブランドの成長 ← ASEAN Project IIIの最重点課題
5. 人・設備への投資再開
6. グローバル人材育成、海外スタッフ優秀社員表彰
7. 財務基盤の強化とIR活動の強化



# Beyond China

※ 詳細につきましては本年度中の公表を目指して準備を進めている中期経営計画ASEAN Project IIIにて開示する予定です。

# 上場維持基準への適合に向けた計画書について

2025年3月31日時点において流通株式時価総額がスタンダード市場の上場維持基準未達。  
以下の取り組みにより早期基準適合を目指す。

1. 既存事業の維持拡大と事業領域の拡大
2. ASEAN生産拠点の効率化
3. 盤石な財務基盤の確立
4. IR活動の充実

## ■ 2025年3月31日時点におけるスタンダード市場の上場維持基準への適合状況

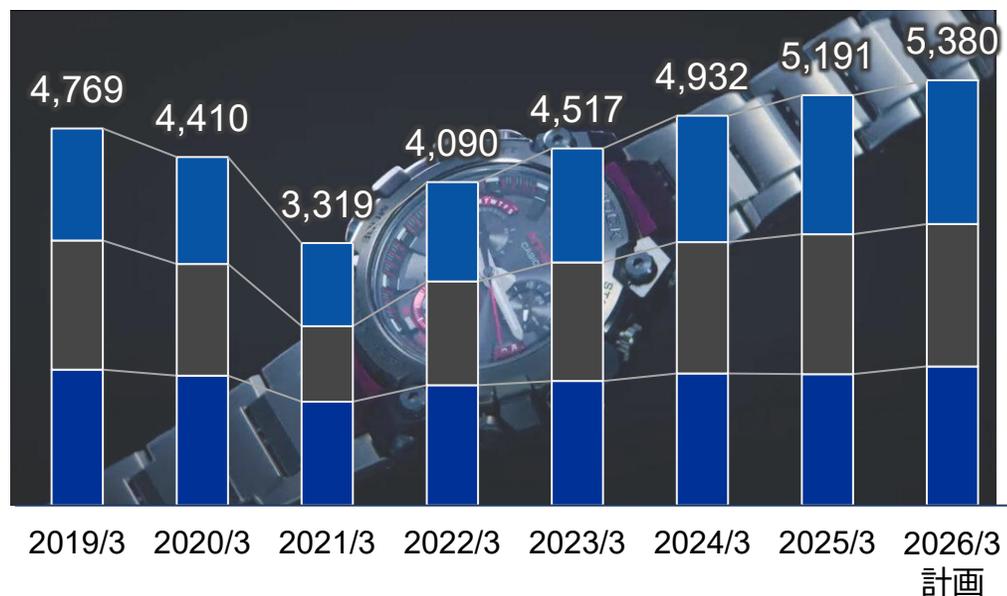
	株主数	流通株式数	流通株式時価総額	流通株式比率
当社の適合状況 (令和7年3月末時点)	3,575人	138,765単位	9.96億円	62.3%
上場維持基準	400人	2,000単位	10億円	25%
計画書に記載の項目	—	—	○	—
計画期間	—	—	令和8年 3月末まで	—

# 事業方針:時計部門

## 【国内主要時計メーカー 時計事業売上計画】

単位:百万円

■ カシオ ■ シチズン ■ セイコー



## 主力事業として盤石の体制を構築

国内主要時計メーカー3社の今期計画は3社合計で前期比約+3.5%と環境は良好。世界的なサプライチェーン見直しの機運をチャンスと捉え、試作専門チームを編成、<提案>⇒<試作>の期間短縮により、中国サプライヤーを凌ぐ機動性を確保。提案力を強化し売上拡大を図る。

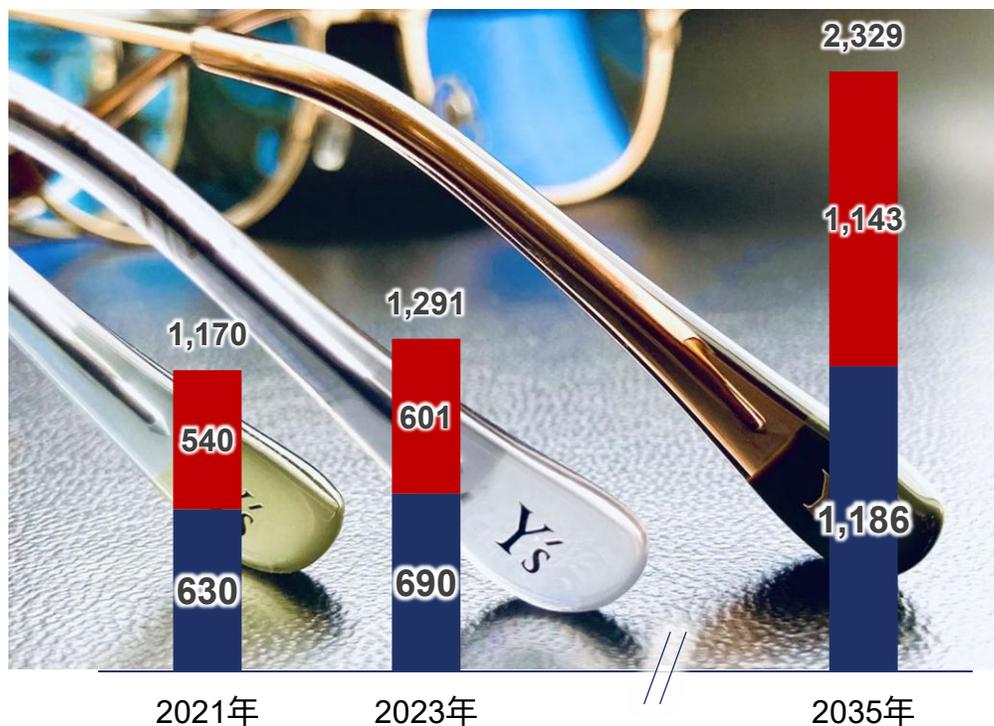
**Beyond Chinaによるシェアアップ実現。**

# 事業方針:メガネフレーム部門

## 【世界のアイウェア市場規模予測】

単位:億米ドル

■ 視力補正その他(コンタクトレンズを除く) ■ サングラス



Global Market Insightsデータから当社推計

## 最重点強化事業

北米を中心に豪華なアイウェアの需要が高まってきている。

サングラスを始めとしたファッション的価値でのアイウェアの市場拡大が予想され、今後は益々多様なスタイルのフレームへのニーズが高まると思われる。

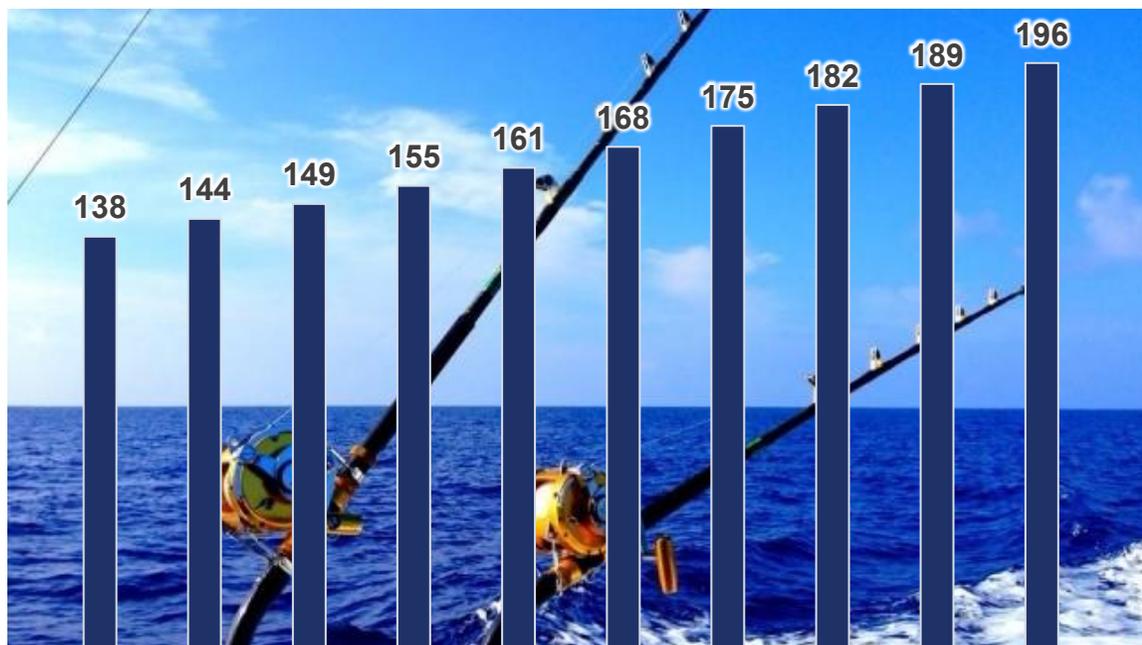
高齢者社会による視力補正ニーズの高まりもあり、中長期的に大きく成長が期待できるセグメント。

**ECによる販売を強化。マーケットニーズを的確に捉え業績拡大を目指す。**

# 事業方針:釣具・応用品部門

## 【釣り具・フィッシング機器の世界市場規模の予想】

単位:億ドル



2023年 2024年 2025年 2026年 2027年 2028年 2029年 2030年 2031年 2032年

Deallab資料より

## フォローウインドを活かし更なる拡大へ



世界的に好調が続く釣具を中心に更なる業績拡大を図る。

時計部品で培った加工技術、ノウハウを活かし、普及価格帯への展開にも注力。売上拡大を図る。

## 2026年3月期 通期業績計画

米国における関税の影響、それに伴う世界経済への影響、為替動向、地政学的リスク等、不透明な要素が多々あり、先行き不透明な状況が続くものと思われます。

当社事業が属する金属加工部品市場においても大きな影響が生ずる可能性も考えられ、下振れリスクを織り込んだ保守的な計画としております。

単位：百万円	2026年3月期 計画	2025年3月期 実績	増減率
売上高	<b>7,000</b>	<b>7,158</b>	△ <b>2.2%</b>
営業利益	<b>180</b>	<b>275</b>	△ <b>34.7%</b>
経常利益	<b>140</b>	<b>2</b>	—
親会社株主に帰属する当期純利益	<b>103</b>	△ <b>20</b>	—

コーポレートスローガン

『手のひらロマンで世界を刻む』

手のひらロマンで世界を刻む

キャッチフレーズ

『肌に優しい金属加工技術』

肌に優しい金属加工技術

# Beyond China



## 日本精密株式会社 手のひらロマンで世界を刻む

本資料は、今後の経営ビジョンに関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資を勧誘することを目的としたものではありません。本資料は注記のない限り2025年3月31日現在の決算データ及び直近の事業データに基づいて作成されております。本資料に記載された意見や予測などは、資料作成時点の当社の判断であり、その情報の正確性、完全性を保証し又は約束するものではなく、また今後、予告なしに変更されることがあります。なお、本資料を無断で複製、または転送等を行わないようお願いいたします。